

## 流域及び河川の概要

下流部に秋田市、中流部に中核都市大仙市を抱え、多くの人口・資産が集中しており、一度氾濫すると甚大な被害が発生  
 雄物川流域の年間降水量は、平野部1,500～1,700mm、山地部2,000mm～2,300mm程度となっており約40%が冬期の降雪。洪水要因のほとんどが前線の停滞によるもの

- 凡例
- 基準地点
  - 主要地点
  - 国道
  - 高速道路
  - 鉄道
  - 流域界
  - 県界
  - 想定氾濫区域



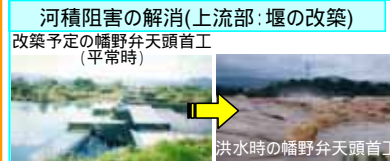
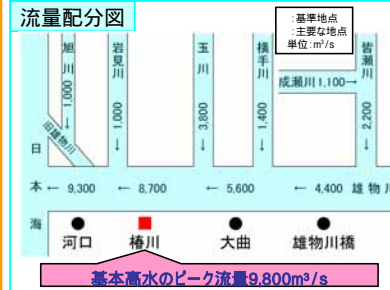
流域及び氾濫域の諸元  
 流域面積(集水面積) : 4,710 km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 133 km  
 想定氾濫区域内人口 : 約 67万人

## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する  
 椿川地点の流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、概ね80m<sup>3</sup>/sとする

## 災害の発生の防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等の結果を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点 椿川で9,800m<sup>3</sup>/sと設定。



基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設及び新たな洪水調節施設で対応  
 上流部においては、堤防の新設、拡築及び河道掘削による河積の拡大、堰の改築等により流下能力を確保  
 中流部においては、治水対策を早期かつ効果的に進めるため、河道や沿川の状況等を踏まえ、住民との合意形成を図りつつ、連続した堤防による洪水防御だけでなく輪中堤や宅地の高上げを実施するとともに、二線堤等の対策を検討のうえ実施  
 河口砂州の変化及び河道の安定性等について影響をモニタリングしながら適切な維持管理を実施  
 洪水等による被害を極力抑えるため、既往洪水の実情等も踏まえ、河川堤防や高規格道路等をネットワークする広域防災ネットワークの構築について関係機関と連携し検討



## 河川環境の整備と保全

サケ科魚類やアユ等の回遊性魚類の遡上環境等の確保や産卵床の保全  
 イバラトミヨ雄物型、トミヨ淡水型が生息しており、ワンド等の湧水環境の保全  
 支川玉川の上流から湧出する強酸性水の対策については、田沢湖などの自然環境、水利用に与える影響及びこれまでの対策等の経緯を踏まえ、中和処理による水質改善を継続実施  
 カヌー体験や花火大会など地域住民の憩いの場として利用されていることを踏まえ、河川に関する情報を地域住民と共有し、河川愛護活動等を推進



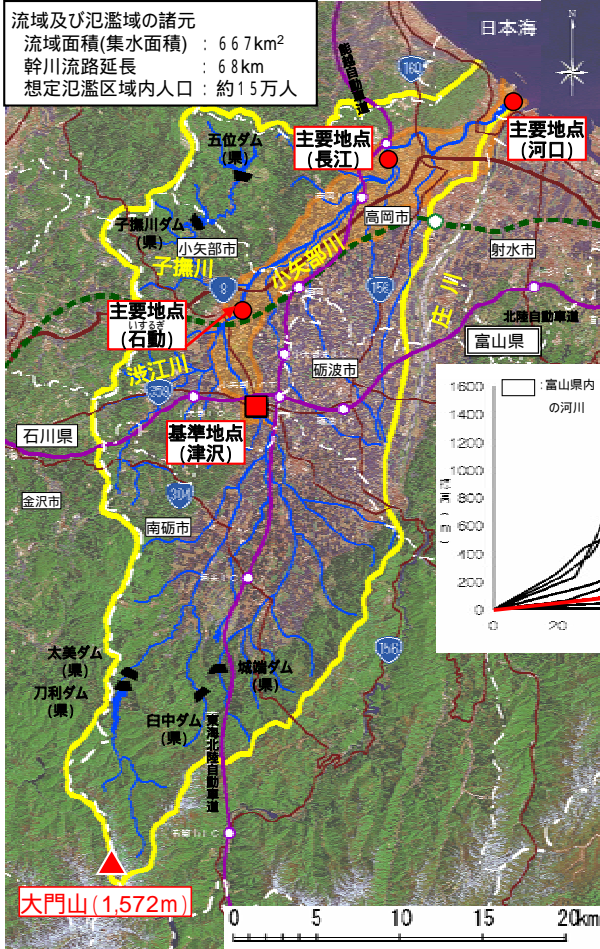
# 小矢部川水系河川整備基本方針(案)の概要

## 流域及び河川の概要

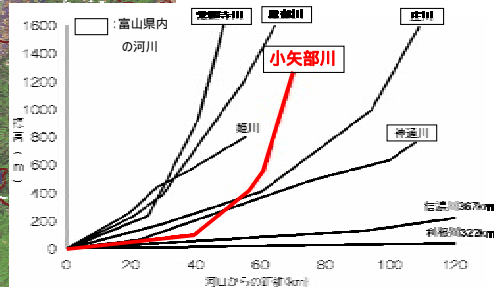
流域の年平均降水量は、平野部で約2,400mm、山地部で約3,100mmと多く、全国平均を大きく上回る多雨多雪地帯  
 流路の70%が平野部を流れており、富山県内では珍しい緩流河川  
 小矢部川は庄川によって形成された扇状地の西側扇端付近を流れているため、庄川が氾濫した場合には小矢部川右岸流域でも甚大な被害が発生

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 6,67km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 6.8km  
 想定氾濫区域内人口 : 約15万人



## 位置図

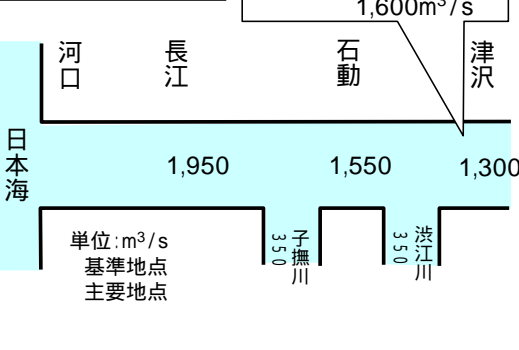


凡 例	
	流域界
	想定氾濫区域
	県境
	市町村界
	基準地点
	主要地点
	ダム

## 災害の発生の防止又は軽減

昭和28年9月洪水以降、計画規模相当の洪水が頻発しているため、既定計画を見直すこととし、全国バランスを考慮しつつ地域の社会的経済的重要性等を踏まえ、計画規模を1/100とする。  
 基本高水のピーク流量は、時間雨量データによる確率からの検討、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等により、基準地点津沢において1,600m<sup>3</sup>/sと設定

## 流量配分図(案)



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設で対応
- 小矢部川の右岸流域は、隣り合う庄川の氾濫域でもあるため、その氾濫特性も踏まえた被害軽減対策を実施
- 水衝部の侵食や洗掘等による洪水氾濫を防ぐため護岸、水制等を整備
- 特定重要港湾伏木富山港(伏木地区)としての利用状況や住宅等の集積状況を踏まえ、港湾等関係機関と連携を図りながら、住宅等の防御対象の特性に応じた施設整備や情報連絡体制等について調査検討を進め、必要な対策を実施

## 既設洪水調節施設



## 下流部の蛇行状況



## 河口部港湾区域



## 河川環境の整備と保全

小矢部川の特徴的な生物のウマノスズクサ群生地やマンセンカラマツ生育場、トミヨやドジョウ等が生息・繁殖するワンドや淵、ミクリやナガエミクリ等の水生植物が豊富に見られる細流、アユやサケ、ウグイ等の回遊性魚類の産卵場になっている早瀬、平瀬のレキ床の保全・改善等に努める  
 外来種については、関係機関と連携して移入回避や必要に応じて駆除等にも努める



瀬・淵



ワンド・細流



小矢部川で確認されたオオキンケイギク(特定外来植物)

## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

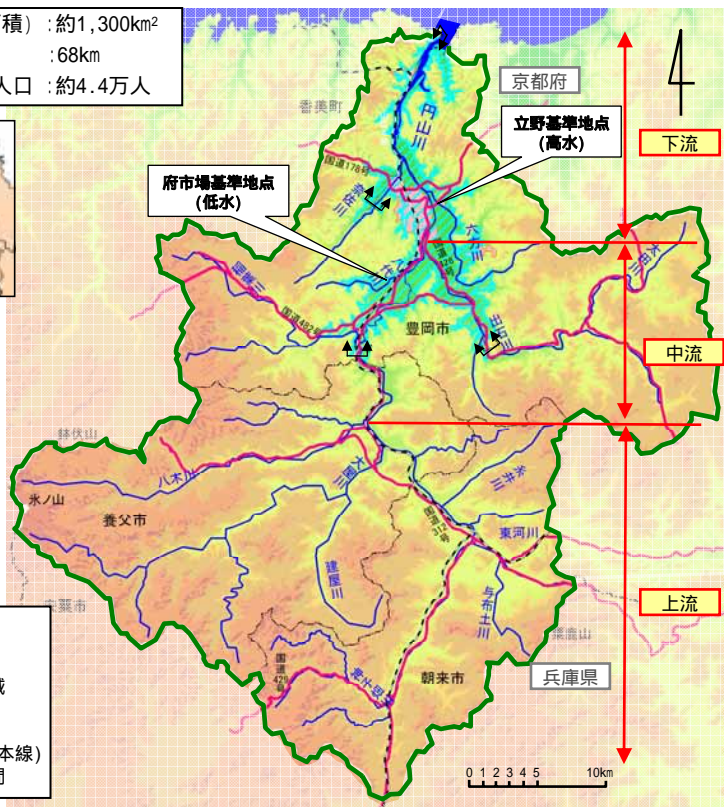
広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める  
 津沢地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期、非かんがい期で概ね6m<sup>3</sup>/s、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする

# 円山川水系河川整備基本方針(案)の概要

## 流域及び河川の概要

- 下流では河床勾配が1/9,000と緩勾配であることに加え、河川沿いに山が迫り、川幅が狭く、感潮の影響も受け洪水が流下しにくい
- 円山川沿いに盆地が形成され、盆地に資産・人口が集中しており、一度洪水氾濫すると甚大な被害が発生
- 豊岡盆地は、堆積した海底が陸地化して厚い粘性土層を形成しており、築堤を行うと地盤が沈下

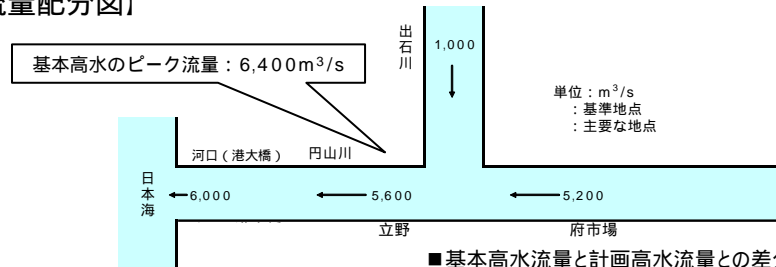
流域面積(集水面積) : 約1,300km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 68km  
 想定氾濫区域内人口 : 約4.4万人



## 災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水の検討等を総合的に検討し、基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点立野で6,400m<sup>3</sup>/sと設定

### 【流量配分図】



- 基本高水流量と計画高水流量との差分については、河道の遊水機能を活かした洪水調節施設および新たな洪水調節施設により対応
- 円山川は河床勾配が小さく排水の悪い豊岡盆地及びその下流の山地部に洪水が集まるという特性を踏まえ、なるべく下流に負荷を与えないようにするとともに、河道や沿川の状況を踏まえ、それぞれの地域特性にあった治水対策を講ずることにより、水系全体として、バランス良く治水安全度を向上させる
- 円山川に並行してJR・県道が走っていることに加え、軟弱地盤であるため堤防整備が遅れており、築堤や拡築等の整備を実施
- 治水対策を早期かつ効果的に進めるため、河道や沿川の状況を踏まえ、住民との合意形成を図りつつ、連続した堤防だけでなく輪中堤や宅地高上げを実施
- 内水被害の著しい地域においては、関係機関と連携・調整を図り、排水機場の整備等の対策を実施

## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める。
- 府市場地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、1月から3月までは概ね1.4m<sup>3</sup>/s、4月から12月までは概ね3m<sup>3</sup>/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする

## 河川環境の整備と保全

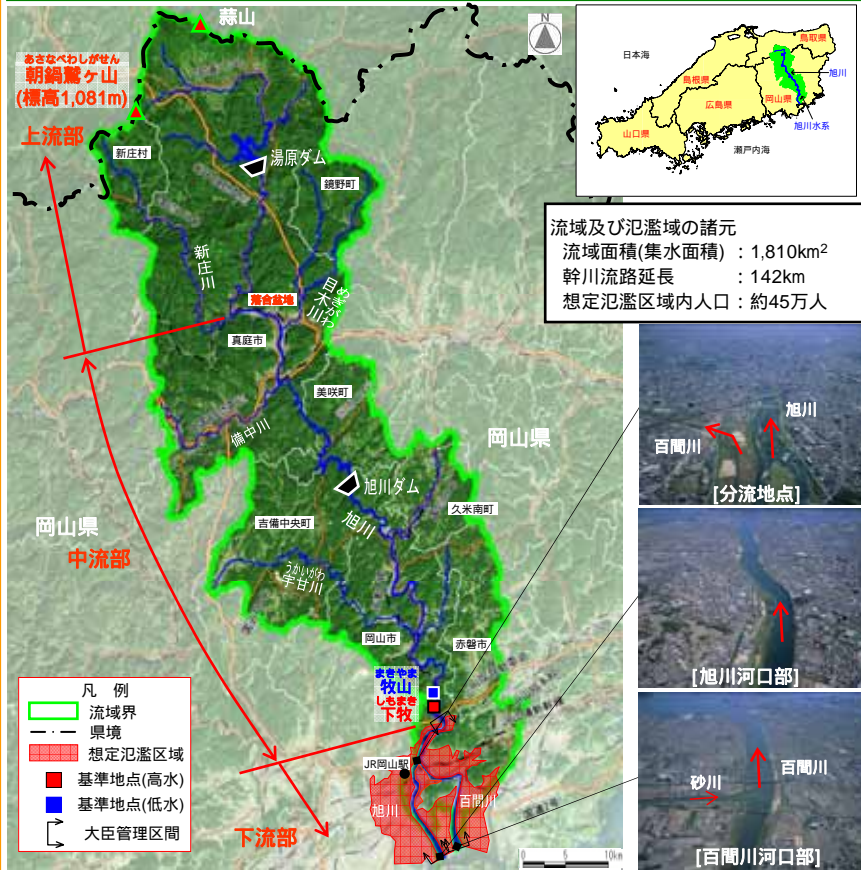
- 円山川と流域の人々との歴史的文化的なつながりを踏まえ、良好な河川景観を保全し、コウナリなど多様な動植物が生息・生育・繁殖する基盤となる自然環境の保全を図るとともに、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努める
- 下流部ではヒヌマイトトンボやイチモンジタナゴ等が生息するヨシ原やワンドなどの湿地環境、干潟について保全・再生に努める
- 中流部では、ムクノキ・ネノキ群集の河畔林、アユの産卵場の瀬、カワラハコ等の生息する礫河原、イチモンジタナゴ等の生息するワンドなどの保全・再生に努める。また、遊水機能を活かした洪水調節施設の整備とともに湿地の再生を努める
- 出石川では湿地環境を関係機関と連携し、保全・再生に努め、コウナリの採餌場に資する。また、瀬・淵の連続する多様な流れの再生に努める
- 上流部では、オオサンショウウオが生息・繁殖する渓流環境や瀬・淵の連続する環境の保全に努める



# 旭川水系河川整備基本方針(案)の概要

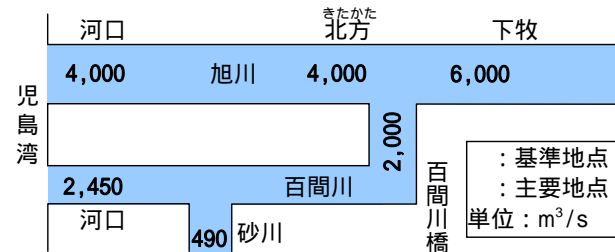
## 流域及び河川の概要

岡山県の中央部に位置し、下流部は資産が集積する岡山市街地を貫流河口部は干拓地で形成され、ゼロメートル地帯が広がるため、洪水・高潮等に脆弱な地形  
下流部には鳥城で知られる岡山城とそれに対面する中州には日本三名園の一つである岡山後楽園が位置し、社会、文化の基盤となっている



## 災害の発生の防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、基本方針においても既定計画と同様に下牧地点における基本高水のピーク流量を8,000m<sup>3</sup>/sと設定



基本高水と計画高水との差分については、既存施設の有効活用で対応

河道掘削等による河積の確保にあたっては、河道の維持等に配慮し、上流からの土砂供給や河道への堆積状況等を監視・把握しながら計画的に実施

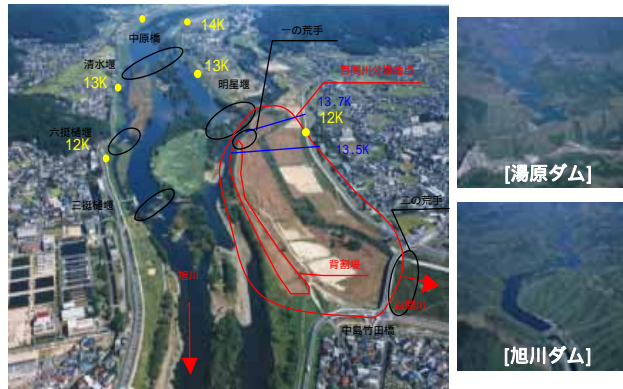
河道内の樹木については、樹木による障害が洪水位へ与える影響を把握するために必要な調査を実施し、河川環境の保全に配慮しつつ、洪水の安全な流下や百間川へ適正な分派を図るため、計画的な伐開等を実施

百間川への分派機能を有する一の荒手、減勢効果を有する二の荒手、背割堤等の施設の改修を実施

百間川は分派点の改修と合わせて百間川河口水門を増築し、適正な機能確保を図る

下流部には干拓によりできた人口・資産が集中する岡山市街地があり、低平地であるため高潮対策や内水対策を実施

【計画高水流量配分図】



## 河川環境の整備と保全

魚類が河川の上下流や本支川等を往来できるように水域の連続性確保に努める  
アユの産卵場である瀬、オヤニラミが生息する水際植生、水生植物のオニバスが生育するワンド、多様な生物の生息・生育・繁殖環境となっている河口干潟やヨシ原などの良好な自然環境の保全に努める  
旭川下流部の岡山後楽園周辺等の貴重な歴史的空間の水辺景観の維持・形成に努める  
流域の歴史・風土・文化を形成してきた自然の恵みを活用しつつ、川づくりを通じて上下流部の交流を促進する



岡山城と岡山後楽園



百間川フェスティバル



アユ



オヤニラミ



オニバス

## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携し必要な流量の確保に努める  
牧山地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期は概ね26m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね13m<sup>3</sup>/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする